

あやうらたちおどりほぞんかい

綾浦太刀踊保存会 (太刀踊保存伝承 / 岡山県瀬戸内市)



代表 大倉 増造氏

【由来・略歴】

綾浦太刀踊が伝承される瀬戸内市牛窓町は、江戸時代に将軍が代わるたびに朝鮮の使節が来朝した際の寄港地であったため、使節が披露した演舞や異国文化の影響が由来とされている。

踊りは12歳前後の男子5人が男装2人・女装2人・太鼓1人にて分担し、太刀や薙刀を打ち合う動作を繰り返すもので、牛窓町綾浦にある御霊(ごりょう)神社の秋祭りに拝殿で行われる。

【受賞歴ほか】

1960年 岡山県指定重要無形民俗文化財に指定

綾浦太刀踊保存会は、例年10月に牛窓神社の秋祭りに合わせて太刀踊を奉納している。地元住民を中心に活動しているが、特に子供たちによる踊りであり、地元の民俗芸能として長く継承されている点が評価できる。

民俗芸能団体において、少子高齢化や人口流出による後継者不足、コロナ禍を契機とした活動中止等が全国的な課題であるが、同保存会は当課題に対応し、2024年に5年ぶりに踊りを奉納し、復活を待ちわびた地元住民らを魅了した。

過去には徳島県鳴門市で開催された中国四国ブロック民俗芸能大会に出演し、日頃の成果を発表する活動を行う等、伝統芸能の保存・継承に大きく貢献してきた。

現在、同保存会は地元の小学校を訪問し、児童への学習会を行う等の普及啓発活動を通し、今後の活動継続に意欲的に取り組んでいる。

また、2017年、朝鮮通信使に関する記録がユネスコ「世界の記憶(世界記憶遺産)」に登録され、牛窓に伝わる太刀踊は、日韓の草の根交流を今に伝える生きた遺産として注目されるようになった。

以上、地域文化の向上に果たした功績は誠に顕著であり、日韓文化交流促進の観点から意義深い伝統芸能として高く評価できる。

受賞の言葉

この度は数ある伝統文化から綾浦太刀踊保存会に栄えある賞をいただき、誠にありがとうございます。このような名誉ある賞を受賞できる事は想像もしていなく、保存会一同、そしてお祭りに関わった子供たち、父兄を初め、地元の方々と今まで絶やすことなく太刀踊を存続させてくれた先人たちの全員の力でいただいたものと確信しております。ほんとうにありがとうございます。

我々、現在の保存会有志が立ち上がったきっかけは、他地区では継続されている秋祭りが当地区では太刀踊りとだんじり巡行が途切れてしまい、行われていないさみしさが発端で、我々が子供だった時に楽しかった想いと喜びを今の子供たち、そして未来の子供たちに同じ楽しさと喜びを味わってもらいたいのが大きな動機でした。

我々の保存会の中での個々人の役割は、明確には決めておらず、できる人ができることを行い、それぞれが補って無理をせず、途切れることがなく、次世代にたすきをつなぐ事を目標にしています。そして何よりも、子供たちはもとより地元の皆さん、当地区にゆかりのある方々が楽しんで、心の拠り所にできるようなお祭りにするように取り組んでいます。そんな最中、今回のエネルギー賞の受賞は、今まで行ってきた事への最高の報いであり、今後の活動に対して大きな励みになります。

更に多くの方々に地区の誇りである太刀踊に携わっていただけるよう邁進してまいります。



太刀踊御霊宮へ奉納に向けての御霊宮の境内手入れ (御霊宮 瀬戸内市牛窓町牛窓)



太刀踊御霊宮へ奉納に向けての練習風景 (綾浦コミュニティ活性化センター 瀬戸内市牛窓町牛窓)



御霊宮拝殿での太刀踊奉納 (御霊宮 瀬戸内市牛窓町牛窓)



太刀踊の伝承用DVD撮影風景 (綾浦コミュニティ活性化センター 瀬戸内市牛窓町牛窓)



綾浦太刀踊保存会と踊子ほか集合写真 (牛窓テレモーク前 瀬戸内市牛窓町牛窓)